

Close Up

クローズアップ 交通教育センター

運転復帰をめざすリハビリ加療中の方を サポートするための車両訓練プログラム

Honda は病気等で身体が不自由になった方の運転復帰を支援するため、全国にある交通教育センターで車両を使って運転能力を評価・訓練する自操安全運転プログラム（以下、自操プログラム）を提供している。今回は自操プログラムの内容と、利用している病院や受講した患者の声を紹介する。

車両を使って運転基礎感覚と 運転基本操作を確認

自操プログラムはリハビリテーション（以下、リハビリ）加療中の方が運転に復帰する際の評価・訓練をサポートすることを目的としたもので、車両の運転を通じて、運転基礎感覚（方向・速度・車両・位置・距離・直進）と運転基本操作（走る・曲がる・止まる）を確認できるようになっている。

2月24日、くまもと南部広域病院（熊本県熊本市）でリハビリ中の方が交通教育センターレインボー熊本（以下、レインボー熊本）にて自操プログラムを受講した。この日、患者に付き添った同病院の理学療法士 大塚文乃さんは「今回の患者様は昨年10月に手術を受けた後、右手と右足に麻痺が残りました。退院時の目標は、クルマの運転ができるようになることです。リハビリを開始し、実車の運転ができそうなレベルまで筋力が改善してきたので、自操プログラムを受講していただくことにしました。瞬間的なブレーキとアクセルの踏み換えと、それが継続的にできるか、運転中の右の足関節の動きを確認したいと考えています」と説明する。

自操プログラムでは受講者が運転席、レインボー熊本のインストラクターが助手席に乗り、センター内のコースを走行する（後部座席に大塚さんと受講者の家族も同乗）。受講者がクルマのハンドルを握るのは5ヵ月ぶり。正しい運転姿勢を確認し、慣熟走行を十分に行って、運転操作に慣れてくるとブレーキングなどの課題に取り組む。最初に40km/hで直線を走行し、急制動を行う。次に信号が点灯したら停止する反応制動と、信号機の色に合わせて、青なら左に回避、赤なら右に回避、黄色ならそのまま停止する反応回避。パイロンスラロームでは、低速で速度を一定に維持しながらパイロンの間を通過。狭路走行では、アクセルとブレーキを小刻みに踏み換えながらハン

ドルを操作して進む。この後、車庫入れにチャレンジして、約50分にわたる自操プログラムが終了した。

実際にクルマを動かせたことで 自信がついた

最後に、インストラクターと受講者、その家族、大塚さんらが一緒になって振り返りを行う。「運転基礎感覚、運転基本操作のいずれも問題なかったと思います。ただ、慣れてくると速度が上がる傾向がありましたので、その点は注意をお願いします」とインストラクターが伝えた。

それを聞いた受講者は「手術する前は、通勤などで毎日クルマを運転していました。今日は課題をクリアしないと、運転できなくなるのではないかと不安を感じていました。しかし、専用のコースで他車や歩行者もいないため安心して受講でき、実際にクルマを動かせたことで自信がつかしました。慣れてくるとスピードを出してしまうという、自分では気づかなかったことを指摘してもらえたのも良かったと思います。今後、公道を走れるようになったら、より安全運転を心がけます」と安堵の表情を浮かべた。同行した家族（娘さん）は「母の運転が手術前とあまり変わっていないことを確認できて、安心しました。運転を再開してしばらくは、自分が横に乗って見守っていくつもりです」と話す。

大塚さんは「約40分連続して様々なコースを走っても疲労感がないようでしたし、アクセルの細かい操作や急ブレーキができていたので、運転の再開に大きく近づいたと思います。このプログラムに私自身が参加するのは初めてでしたが、運転復帰に必要な評価ができる内容で、患者様の自信にもつながると感じました」という。くまもと南部広域病院では今後も自操プログラムを活用し、運転復帰をめざす患者を支援していく考えだ。



インストラクターが助手席に同乗し、受講者が運転する様子を確認する



正面の信号機の色に合わせて回避の方法を選択する反応回避



狭路走行はクラック状になっているコースを走行



一定の速度を維持しながらパイロンスラロームを行う



車庫入れで後退時の運転操作を確認



インストラクターが受講者の運転結果を説明する振り返り

メディア向け取材会を通じて HMS の認知を拡げ より多くのライダーへの安全運転普及をめざす

3月8日、Honda は交通教育センターレインボー埼玉（以下、レインボー埼玉）で二輪車専門メディアの記者やジャーナリストを集め、「Honda の安全運転普及活動取材会」を開催した。

Honda では個人のお客様に楽しくバイクの安全運転を身につけていただくため、Honda モーターサイクリスト スクール (HMS) を1978年からスタート。現在、レインボー埼玉をはじめ全国5ヵ所の交通教育センターで定期的実施し、年間1万2000名以上のお客様が受講している。

近年、リターンライダーや若年層を中心とした二輪車ブームで、自損や対四輪車の交通事故が増える傾向にある。Honda は二輪車専門メディアを通じて、多くのライダーに HMS の認知を拡げ、受講につなげることで安全運転への理解促進を図ろうと、今回の取材会を企画。開催にあたり、横山謙一本田技研工業（株）安全運転普及本部事務局長が「私どもは『乗らない安全』ではなく、『乗せる安全』に力を入れています。今日は、皆様に危険を安全に体験していただけるようにしました。皆様のメディアを通



レインボー埼玉のインストラクターが運転姿勢などの基本から指導



記者やジャーナリストがパイロンスラロームなどの課題に取り組んだ

じて、初心者やリターンライダー含め、日本中のライダーがより安全に走れるようにアドバイスをお願いしたいと思います」と挨拶した。

取材会では、記者やジャーナリスト15名が HMS 初級コースを受講者として体験。受講

した雑誌の記者は「今日は公道ではできない様々なトレーニングができて、有意義なスクールでした。安全を考えながらバイクに乗るのは難しいことであると同時に楽しいことでもあることを、誌面を通じて読者に伝えていきたいと思っています」と感想を語った。